

京都府立鳥羽高等学校 地域全体で地域人材をグローバルに育てる高大社連携の深化（京都府）

実施体制の概要

- 全校生徒数：約960名
(うちSGH対象生徒 全員対象とする)
- SGH対象学科：
普通科、グローバル科ともに全生徒を対象とする
- HP：
<http://www.kyoto-be.ne.jp/toba-hs/mt/>
- SGH委託費用総額：約4,190万円
(H27～R1：約740万円～約1,000万円)
- 校内の体制：グローバルリーダー育成推進部が週に1回程度の会議で協議と情報共有を行う。
- 国内連携機関：
SGU等の大学、学術・伝統文化に係る機関、地元企業等と幅広く連携する「鳥羽の学びネットワーク」を構築
- 連絡先
✉ ke-nakamura@kyoto-be.ne.jp
075-672-6788（代表）

何を目指したか

地域の密なネットワークによる、地域とともに羽ばたくグローバルリーダーの育成

ツールのポイント

- 1 総合的な探究の時間「イノベーション探究」で用いる研究計画書を連携大学と協働で作成し、探究プロセスを可視化
- 2 地元企業の海外拠点における海外インターンシップを単位認定

SGH事業実施に必要な資源



■SGHへの関わりを1人1役で付与。内容は希望制をとり、教科や分掌等の受け持ちとの相乗効果を持たせることを意図し、負担の純増にはならないよう配慮。



■京都府教育委員会スペシャリスト特別選考枠を活用し、英語ネイティブでグローバル化を推進する教員を採用



■タスクを細分化することで分担がうまく機能したことが、個々の教員の時間的負担を減らし、働き方改革に繋がった。



■当初は教員の理解は限定的であったが、対象学年の広がりと共にそれに応じた参加教員の広がりにより、理解が浸透。

Plan

ツール作成の背景

- 京都府が取り組む高校特色化の流れの中で、本校はグローバル教育の推進を目的とした京都府教育委員会「グローバルネットワーク京都校」（現在は10校）の幹事校に指定された。その後、さらに先進的な研究開発を行うためにSGHに申請を行った。
- SGHで育む「価値創造力」「協働力」「突破力」「寛容力」「教養力」の5つの力は、こうした高校特色化の流れの中で、それまでの本校の取組を踏まえつつ、グローバル社会において必要となる力・本校が生徒を育てる力として再定義したものである。
- また、本校が立地する地域において、SGH指定以前から「地域の人材を、地域で育てる」という意識が、本校だけでなく、地元企業とも共有されていたことが企業との連携による教育活動の礎となっており、SGHを契機にさらに地元企業との連携が促進された。
- 大学との連携も緊密であり、大学と高校が協働研究を通じて築いた関係性により、単発の講演で留まらない課題研究への参画やTAの派遣等、継続性のある連携が可能になった。

Do

ツールの解説

✓ 課題研究の柱となる研究計画書

- 3年間継続して取り組む課題研究「イノベーション探究」の柱となる教材が、探究プロセスを可視化した研究計画書である。これは連携先の大学と協働作成したもので、リサーチ・クエスチョンを細分化し、テーマに対する自身の問いを深めていくための書式となっている。
- 研究計画書以外にも「仮研究テーマ設定シート」「ツッコミシート」「調査シート」など、様々な補助シートが用意されており、研究計画書が順次バージョンアップされていく仕組みになっている。

取組概要

✓ 地元企業と連携した海外インターンシップを単位認定

- レーザーテクノロジーに強みを持つ（株）片岡製作所、分析・計測機器大手の（株）堀場製作所等の地元企業と連携し、単位認定できる海外インターンシップを実施している。
- 生徒は、京都本社で業務内容等を理解したのち、片岡製作所の上海等にある海外拠点及び現地企業（日系、海外企業両者含む）を訪問し、世界でどのように同社の技術が活躍しているかを見学、体験する。
- また、11月のシンガポール研修では、堀場製作所の海外拠点を訪問し、現地社員と英語によるコミュニケーション実習等を実施している。

取組概要

Check

取組内容の評価

- SGH指定3年目（平成29年度）にグローバル科を開設。最終年度にはSGHの対象を全生徒に拡大し、高校全体でグローバルな学びをより広く深く推進。
- 地元企業とは、「地域の人材を地域で育てる、という理念でつながっており、教育活動に対して率直にフィードバックし合える関係性を築けている。こうした率直な関係性があることが、企業が高校の教育活動に継続して関わっていただける土台にある。

Action

指定期間終了後のいま

- SGHを通して、グローバル社会において生徒に育むべき力を定めるとともに、総合的な探究の時間を核とする文理融合・教科横断的な学びを推進したことを踏まえて、令和2年度からは単位制課程を導入し、さらに高度で先進的なカリキュラムの研究開発を進めている。
- また、SDGsの達成に向けた課題研究やSTEAM教育の推進等をテーマに掲げたカリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。